

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の柔軟な学びに配慮した教育課程により、個別最適な学びを学校全体で取り組む。 誰一人取り残すことなく、多様なニーズに即した支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度、オンライン学習を導入するためオンラインレポートやオンラインスクーリングの実施に向け、教科内及び学校全体で取り組む。 ○活動率を高めるための最適策を模索し、全ての生徒へ学習支援や連絡・相談体制が取れるよう学務グループなどが中心となり、学校全体で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)オンライン学習の導入に向け、修悠館マイページの活用を全生徒に周知させ、動画を含む学習コンテンツ等学習支援体制のさらなる充実を図る。 (2)非活動生を無くすため、履修登録や受講手続きの方法を模索し、全生徒が活動生となり、一人ひとりに最適な学習支援を各方面からできるよう学校全体で工夫し、単位修得に結びつけるよう努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)オンラインレポートの作成に当たり、教員の添削作業効率の低下や生徒の作業ストレスの増大などに起因するレポート提出率の低下を招かぬよう学習支援体制を構築できたか。 (2)全生徒が活動生となる方策を構築し、生徒間の格差を、担任だけではなく、教科担当者、担当グループなど学校全体で連携をし、単位修得に結びつけることで格差是正ができたか。 					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心して学べる教育環境を維持する。主体的に取り組む意識の醸成をめざした教育活動を取り入れていく。 生徒が自己を尊重し、自らの力を十分発揮できるよう個別最適化を図り、充実した学校生活に繋げるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導規定やいじめ防止マニュアルの内容を全職員が理解し共通認識を持って指導を行う。 ○生徒が学校の規則を遵守し安心して学校生活を送れるよう、規則の周知徹底に努める。主体的に参加できる学校行事を充実させる。 ○より効率的な生徒情報の把握および職員間での共有に努め、生徒一人ひとりの教育的ニーズに沿った効果的で継続的な支援を行えるように一層の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)いじめ防止のため、いじめアンケートの100%の回収率を目指す。問題行動には早期発見・対応し、職員間で共通理解を持ち生徒指導を行う。 (2)学校ホームページ、通信紙・掲示物・校内放送等を用い、学校の規則を周知していく。自ら学ぶ意欲を育むため多様な学習機会を提供する。 (3)教職員、SC、SSW および教育支援専門員等の情報共有においてデータベースを積極的に活用し、学習および生活上の支援を要する生徒への支援の充実化を図る。 (4)SC・SSWに併せてメンター制度や外部機関等と連携し、相談者の分散を図り面談日程に余裕が生じる仕組みを整え、生徒支援の充実繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)いじめアンケートの回収率100%を達成できたか。問題行動の早期発見・対応し共通の理解を持った指導ができたか。 (2)学校ホームページ、通信紙・掲示物・校内放送などを通して学校のルールを周知できたか。自ら学ぶ意欲を育むため多様な学習機会を提供できたか。 (3)教職員および関係者が様々な情報をデータベースに積極的に登録したか、ケース会議や情報交換会、担任間の引継ぎなどの場面においてデータベースが活用されたか。 (4)SCやSSWに必要に応じて相談を受けさせることができているか。安心して相談に集中できる環境づくりなどの体制となっているか。 					

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	<p>・生徒が将来を考え、自分の適性に合った実現可能な進路選択を行い、行動できるようにサポート体制を構築、強化する。</p> <p>・生徒個々の可能性を広げ、社会的自立に向け、生徒が興味関心を持ち積極的に活動できる支援体制の充実を図る。</p>	<p>○横浜中地区のインターンシップの参加者を昨年度より増やし、新しい知識や経験から視野を広げる機会とする。</p> <p>○進学アドバイザーの利用、各種説明会等の参加を増加させる。また、新しく、総合型・学校推薦型選抜対策、「進路・進学探究」というプログラムを実践する。</p> <p>○生徒の成長に寄与できる通級指導のあり方を探り、生徒一人ひとりが成長を自覚し、将来の自己実現に繋がるよう関係機関と連携し、一層効果的な支援を行う。</p>	<p>(1)通信紙やGoogle Classroomの利用により、参加することの意義を周知する。</p> <p>(2)Google Classroomを活用することにより、迅速に進学に係る情報を流していく。また、プログラムについては、具体的な運営の仕方を決めて、関係機関の担当者と協力して実践する。</p> <p>(3)通級指導教室受講生等に早期のインターンシップ・就業体験等を行い、生徒・保護者の意向を確認し、卒業後の進路を見据えた個々の生徒支援となるよう担任や生徒に呼びかける。</p> <p>(4)校内での情報共有と共通理解を図るとともに、関係機関との連携によるきめ細かな支援に努め、挑戦する力を育む。</p>	<p>(1)横浜中地区のインターンシップの参加者を昨年度より、増やすことができたか。</p> <p>(2)進路説明会、総合型・推薦型入試説明会、進学面接試験がインターンシップの参加者が昨年度より増えたか。また、「進路・進学探究」プログラムをスムーズに運営できたか。</p> <p>(3)担任等と連携し、生徒・保護者の意向を確認し、スムーズな就労活動ができたか。</p> <p>(4)生徒一人ひとりに必要な支援を行うための工夫ができたか。生徒自身が成長の振り返りを行い、自己認識することができたか。</p>					
4 地域等との協働	<p>地域や近隣の小中学校等と連携し、協働の体制を構築することで、地域に貢献し、地域から信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>○活動機会の拡充に向けた情報交換をより円滑に行うための体制を検討するとともに、実施した活動を校内外へ向けて適切に発信していく。</p>	<p>(1)地域との協働に関する学校全体の年間予定や担当窓口を整理し、より円滑な情報交換体制を検討する。</p> <p>(2)地域との協働に関する校内外への情報発信を充実させる。</p>	<p>(1)学校全体の地域連携を一覧にまとめ、活動機会の拡充に向けた情報交換体制を検討できたか。</p> <p>(2)様々な立場の職員が情報発信を行うことで、配信内容が多様化したか。</p>					
5 学校管理 学校運営	<p>・生徒が主体的に自己実現できるよう、サポートする教職員の技能を活用できる環境整備とサポート力の向上を図る。</p> <p>・教育環境の変化によりよく対応しようとする教職員の活動を支援する。</p>	<p>○生徒の学習環境の向上を目指し、スクリーンのオンライン配信に向けた機器と学習室等の整備を進める。</p> <p>○予想されるさまざまな災害に即応できる教職員、生徒の意識向上を目指す。</p>	<p>(1)ライブカメラの試験的な運用を通して、より学習効果の高いスクリーンの行えるよう使用法や機器の選定を通して生徒に還元できるよう努める。</p> <p>(2)防災意識を高められるよう、訓練以外でも定期的に防災情報を提示する。</p>	<p>(1)オンラインスクリーンの視聴数と生徒の満足度がどの程度であったか。</p> <p>(2)アンケート調査を行ったり、アクセス数がどの程度であったか。</p>					